

昭和59年度 和歌山県文化賞

おお ばやし たつ ぞう
大 林 辰 蔵

住 所：東京都杉並区

出 身 地：和歌山県和歌山市

生 年：大正15年

◎業績及び経歴

昭和18年和歌山中学修了、旧制第6高等学校理工科を20年同卒業。昭和23年東京大学理学部卒業。その後昭和35年迄郵政省電波研究所に勤務する。この間昭和30年から昭和32年にかけてカナダのトロント大学に留学し、理学博士取得又東京大学でも理学博士取得。昭和36年京都大学教授に就任、電離層研究所の初代所長となる。昭和39年NASAの宇宙研究所等の客員教授をつとめる。昭和42年東京大学宇宙航空研究所教授に転任、日本最初の人工衛星打ちあげにとりくむ。昭和56年同研究所の改組により現文部省宇宙研究所の教授主幹として現在に至る。専攻分野は宇宙科学。

我が国の科学衛星計画プロジェクトリーダーとして15年来科学技術のすぐれた能力を宇宙に活かす必要性をアピールし技術水準を向上させた功績は大きい。

昭和50年NASAスペースシャトル主任研究員となり、昭和58年11月スペースシャトル9号機にあたるスペースラブ(宇宙実験室)1号により人工的にオーロラをつくる実験として報道されたSEPAC実験を行い、大きな成果を収め、さらに昭和60年には再び人工オーロラ実験を試みる準備をすすめている。

長い研究に裏づけられた「人類生活圏の宇宙空間への拡大」という宇宙開発への展望には極めて具体的かつ説得力をもつ。筑波科学万博の指導にもあたる宇宙空間の物理学者として世界の第一人者であり、さらにスペースコロニー(宇宙都市)建設に意欲を燃やす。

■現在

NASAスペースシャトル主任研究員
科学衛星計画プロジェクト・リーダー
宇宙基地計画特別部会委員

■主な著書

「宇宙空間物理学」
「宇宙2025年」
「宇宙の実験室」
「宇宙をめざして」

■主な表彰歴

昭和52年 第17回東レ科学技術賞受賞